

# きもの豆知識 着物の防寒について

流石に12月ともなると寒い日が続きます。お出かけの際には着物の上に1枚欲しい季節でもあります。改めて、コートや羽織について学んでみましょう。



①道中着衿(どうちゅうぎえり)  
普段着コートの形です。略式ですので、礼装には向かず、気軽なおしゃれ向きです。



② 道行衿(みちゆきえり)  
もっとも一般的な衿の形です。礼装用からおしゃれまで幅広くお楽しみいただけます。



③ へちま衿  
落ち着いた雰囲気の衿元で、ご年配の方に人気です。最近では洋服のへちま衿ケープなどの流行もあり若い方にも人気です。



④ 千代田衿(ちよだえり)  
道行衿・道中着に次いでメジャーな形です。お若い方からご年配の方にまで人気があります。



⑤ 羽織(はおり)  
コートと違い、室内でも脱がなくてよいとされています。(お茶席などでは脱ぎます。)おしゃれ用のみならず、絵羽羽織や黒紋付羽織などは略礼装としてもお使いいただけます。

雨の日は雨ゴートを  
雨なのにどうしても着物を着なくてはいけない日ってありますよね。でも、絹の着物は雨が苦手です。雨の日は着物全体を守ってくれる、雨ゴートを1枚持っているとても重宝します。

## 歌舞伎のススメ ~仮名手本忠臣蔵(かなでほんちゆうしんぐら)~

12月といえば『忠臣蔵(ちゆうしんぐら)』を思い出す方も多いのではないのでしょうか。(吉良町民は複雑ではありますが・・・)現在上映されている『忠臣蔵』はある程度史実に基づいて話が展開されていますが、歌舞伎で上演される『仮名手本忠臣蔵』は時代背景も南北朝時代、そして登場人物も変えられているお芝居だということは4月の新聞でも少し触れました。もともとは吉良と赤穂の争いを当時全盛期を迎える人形浄瑠璃で上演したのが最初と言われています。

この仮名手本忠臣蔵で最初の見所と言われているのは、(大序)と言われる最初の段で、開幕前に口上人形が配役を述べ、荘重な演出で幕があきます。

はじめはそこに居並ぶ役者全員がうなだれており、義太夫の語りに合わせて人形に魂が入るように動き出すという人形浄瑠璃の演出をそのまま残している点にあります。

なかなか上演を見るチャンスは少ないかもしれませんが、最近ではDVDなども発売されていますので、人形浄瑠璃と、歌舞伎を見比べてみるのも面白いかもしれませんね。



かわちやの  
**着付教室 12回**  
1回1000円

かわちやの着付け教室ではそれぞれの目的やスケジュールにあわせたカリキュラムを組んでいきます。

お気軽にご相談ください。  
お問い合わせは  
**TEL 0563-35-0039** 大橋幸子まで

かわちやの  
ワンポイント着付教室  
**1,000円**  
半巾帯の結び方など  
ピンポイントでお教えます。  
(2時間)

### 年末年始のご案内

12月 30日(水)	31日(木)	
営業	営業	
1月 1日(金)	2日(土)	3日(日)
お休み	お休み	営業

1月3日より通常営業いたします。

### 着物クリーニング

何でも 汚れの種類や程度によって追加料金がかかる場合がございます。

**2点7,560円**  
着たあとのお手入れは大切!

### 着物のおすすめ本紹介

小島慶子のきもの修行

元アナウンサーの小島慶子さんが書いている着物日記のような本です。お金持ちの芸能人の着物日記のように、高価な着物を次から次へと紹介していく浮世離れしたものは違い、アナウンサーとして働きながらどうやって着物を購入するか、悩みながら一つ一つ眺えていく様が、リアルで好感の持てる内容になっています。興味のある方は一度読んでみてください。

### 草履・下駄はあっていますか?

履物の調整

1足500円

### イベント案内

**年末大処分市**  
12月5日(土)～7日(月)

**初市**  
1月13日(水)～18日(月)

**新作振袖展**  
1月15日(金)～18日(月)